

## 平成29年度全国学力・学習状況調査の管内結果について

平成29年11月、北海道教育委員会では、今年度の全国学力・学習状況調査の管内別の状況を公表しましたので、留萌管内の児童生徒や学校の状況についてお知らせします。

### 【学力の状況】

	小国A	小国B	小算A	小算B	中国A	中国B	中数A	中数B
留 萌 ( )は全国比	73.5 (-1.3P)	56.4 (-1.1P)	77.7 (-0.9P)	43.6 (-2.3P)	76.8 (-0.6P)	74.2 (+2.0P)	64.6 (±0.0P)	46.3 (-1.8P)
昨年度の「全国比」との差 + : 全国比が昨年度より高い - : 全国比が昨年度より低い	-0.7P	-1.5P	+0.9P	+0.1P	-1.0P	+1.7P	+1.0P	-1.0P

- 中学校の国語Bで全国を上回り、数学Aで全国と同様となっています。
- 昨年度の「全国比」との差では、小学校は算数A・Bで差を縮めています。中学校は国語Bで差をプラスに広げ、数学Aで差を縮めています。

算数・数学の3領域で「全国比」との差を縮めています。日問題は他の領域と比べて「全国比」との差が非常に大きい状況です。

### 【質問紙調査の状況】

授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動	小学校 ( )は全国比			中学校 ( )は全国比		
	学校	児童	意識の差	学校	生徒	意識の差
授業の最後に学習したことを振り返る活動	93.8(+19.6P)	61.5(+ 2.9P)	-32.3P	92.3(+26.9P)	54.2(+ 1.1P)	-38.1P
	昨年度との「意識の差」の比(+ : 差が縮んだ - : 差が広がった) -3.2P			昨年度との「意識の差」の比(+ : 差が縮んだ - : 差が広がった) -2.5P		
授業の最後に学習したことを振り返る活動	75.0(+22.5P)	44.3(+ 4.0P)	-30.7P	76.9(+33.7P)	20.6(- 4.7P)	-56.3P
	昨年度との「意識の差」の比(+ : 差が縮んだ - : 差が広がった) -7.7P			昨年度との「意識の差」の比(+ : 差が縮んだ - : 差が広がった) -0.9P		

- 「授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動」を「よく行った」と回答した学校の割合及び「示されていた」と思う児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を上回っています。
- 「授業の最後に学習したことを振り返る活動」を「よく行った」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国を上回っています。「よく行っていた」と思う児童生徒の割合は、小学校で全国を上回っています。

全国を上回る成果が見られた一方で、学校と児童生徒との意識の差が昨年度よりも更に広がっていることが明らかにになりました。

	小学校 ( )は全国比	中学校 ( )は全国比
1日あたり1時間以上勉強	61.9 (-2.5P)	51.3 (-18.3P)
	昨年度との差 +1.1P	昨年度との差 -2.3P

- 「1日、1時間以上勉強している」児童生徒の割合は、小学校は全国を下回っているものの昨年度を上回っています。中学校は全国を下回るとともに昨年度を下回っています。

### <留萌管内特有の課題>

- ①算数・数学の主として「活用」に関する問題を解決する力に課題がある。
- ②授業の中で「目標を示す、学習したことを振り返る活動」で、学校と児童生徒との意識の差が大きい。
- ③授業以外に1時間以上勉強する児童生徒の割合が全国より低い。特に、中学校は15P以上低い。

### ◎ 課題解決に向けた取組(例) ◎

- 算数・数学の授業では、特に課題の見られた図形の領域において、児童生徒が図形を構成する要素に着目し、事柄が成り立つ理由を筋道立てて考える学習活動を徹底しましょう。
- 児童生徒が単位時間や単元の学習で何をどのように学ぶのか「見通す」学習活動や、児童生徒が自らの学びへの手応えを得ることができる「振り返る」学習活動を充実しましょう。
- 授業内容と関連させた宿題の工夫や学習習慣の確立に向けた家庭との連携など、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた取組を推進しましょう。